

第2次稲敷市総合計画審議会（第1回） 議事録

日時：平成27年12月18（金）午後2時から

場所：江戸崎庁舎 2階会議室

委員：横須賀徹会長、浅野信行副会長、

伊藤均委員、根本光治委員、岡沢亮一委員、
篠田純一委員、柳町政広委員、野村由紀子委員、
青木啓泰委員、田丸治委員、富澤富生委員、
岩崎昭一委員、小幡保委員、黒田功委員、
高須行雄委員、諸岡明美委員、高木正志委員、
墳崎崇史委員、高須晃次郎委員、沼崎夕子委員、
田村千鶴委員、清野敏秀委員

（欠席：姥貝守委員）

事務局：政策調整部長、政策企画課 5名

コンサルタント：3名

■議事

- (1) 策定方針について（資料3）
- (2) 基礎調査の結果について（資料4）
- (3) 策定スケジュールについて（資料5）
- (4) その他

■配布資料

- ・第2次稲敷市総合計画審議会 第1回会議次第
- ・稲敷市総合計画審議会委員名簿
- ・資料1 稲敷市総合計画審議会条例
- ・資料2 諮問書・諮問理由
- ・資料3 策定方針について
- ・資料4 基礎調査の結果について
- ・資料5 策定スケジュール
- ・参考資料1 現況及び都市数量調査
- ・参考資料2 グループヒアリング調査結果の報告

1. 開会

事務局：定刻でございますので始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより第2次稲敷市総合計画審議会第1回審議会を始めさせていただきます。

本日は最初の審議会でございますので、まだ、会長、副会長は選任されてございません。選任されるまでの間、私、政策調整部の高山が進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、当審議会は公開とさせていただきますと思っています。よろしくお願いいたします。

本日の日程でございますが、約2時間程を予定させていただきたいと思っております。まず、委嘱式をさせていただきます、その後、審議とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、配布いたしました資料の氏名の記載でございますが、敬称を略させていただきましたので、併せてご了承くださいと思います。

2. 稲敷市総合計画審議会委員の委嘱

事務局：それでは始めに田口市長から委員の皆様へ委嘱状の交付をさせていただきますと思います。

委員の選任につきましては、稲敷市総合計画審議会条例によりまして、市議会議員8名以内、学識経験者3名以内、各種団体等8名以内、一般市民6名以内となっており、詳細については、別紙の名簿の通りでございます。

これより、委嘱状交付の前に委員の皆様を事務局から紹介させていただきますので、お名前を呼ばせていただいた後、その場でご起立くださいますようお願い申し上げます。

<委員紹介>

事務局：委嘱状につきましては、時間の関係上、代表して1名の方に交付させていただきますので、ご了承お願いしたいと思います。代表いたしまして、高木正志様をお願いしたいと思います。

<委嘱状交付>

事務局：ありがとうございました。以上をもちまして、委嘱状の交付を終わらせていただきます。

本日、都合によりまして、姥貝守委員につきましては、欠席されておりますが、総勢23名の委員構成となっております。よろしくお願いいたします。



3. 市長あいさつ

事務局：続きまして、田口市長よりご挨拶申し上げます。

田口市長：ご紹介いただきました市長の田口久克でございます。よろしくお願いいたします。本日は大変ご苦勞様でございます。この度は、稲敷市総合計画審議会の委員にご就任いただきまして、誠にありがとうございました。また本日は、お忙しい中、当審議会に出席をいただきましたこと、改めまして、御礼を申し上げます。



現在、稲敷市では、第1次稲敷市総合計画に基づきまして、「みんなが住みたい素敵なまち」を将来像に、人口減少問題に対応できるまちづくり、そして、圏央道の波及効果を活かした地域の振興、小学校の再編など、様々な施策を総合的に推進してまいりました。しかし、市を取り巻く状況は、この10年間で大きく変化しました。特に、人口減少問題は、日本創生会議の報告によりますと、残念ながら、消滅の可能性がある市町村のひとつになっております。早急に取り組むべき最重要案件であります。一方で、学校跡地などを活用しまして、民間事業者による野菜工場やスポーツ専門学校が動き出すなど、明るい話題もございます。今後も、市政の課題を的確にとらえまして、更なる、稲敷市の発展を推進させるため、市政運営の基本方針となる「第2次稲敷市総合計画」を策定するものであります。

この計画は、今後の市政運営の羅針盤となるものでございますので、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。本日はお忙しい中、大変ご苦勞様でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：ありがとうございました。

4. 稲敷市総合計画審議会会長、副会長の選出

事務局：次に、会長、副会長の選任でございます。お手元にお配りしてございます、資料1の「稲敷市総合計画審議会条例」第4条にありますように、「審議会に、会長及び副会長各1人を置く」、「会長及び副会長は、委員の互選によって定める。」としておりますので、よろしくお願いいたします。

選出につきまして、何か委員の皆様からご意見等ございましたら、承りたいと存じます。何かございますか。

<意見なし>

事務局：ご意見等ないようでしたら、事務局の案を発表させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

事務局：それでは、事務局より会長及び副会長のご提案をさせていただきます。

事務局といたしましては、会長に、常磐大学教授であります横須賀徹委員をご推薦申し上げます。

横須賀委員は、平成22年から3年間、稲敷市経営戦略委員として、また、稲敷市まち・ひと・しごと創生本部の有識者会議、委員長を務め、市行政運営にご尽力をいただいておりますことから適任であると考えております。

また、副会長には浅野信行委員を推薦申し上げます。

浅野委員は、稲敷市議会議長であり、当審議会の経験も有していることから適任であると考えております。

どうぞよろしくご審議の程よろしくお願いいたします。

事務局：ただいま事務局案について説明させていただきましたが、他にご意見がなく、皆様方にご異存がなければ、恐れ入りますが、拍手をもってご承認いただければと思います。

<拍手>

事務局：ありがとうございました。それでは、委員の皆様のご承認が得られたということで、会長は横須賀委員、副会長は浅野委員にお願いいたします。

横須賀委員、浅野委員、会長・副会長席の方へお移りいただければと思います。

<席の移動>

5. 会長、副会長あいさつ

事務局：それでは、ただいま選出された横須賀会長と浅野副会長に一言ご挨拶を頂きたいと思います。

横須賀会長、よろしくお願いいたします。

横須賀会長：横須賀でございます。よろしくお願いいたします。今回、第2次総合計画の策定ということで、合併してから10年が経ち、次の10年を定める計画を審議する会の会長を仰せつかって非常に緊張してございます。しかし、この現場を見ますと、ずいぶん若い方が一杯いらっしゃって、きっと10年後、20年後の稲敷を支える方々が一緒に計画作りをしていただけるということで、非常に心強く思っています。よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。浅野副会長よろしくお願いいたします。

浅野副会長：改めまして皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、副会長

に任命されました浅野でございます。横須賀会長をしっかり支えて、先程、横須賀会長からもありましたけれども、次の10年、15年を目指して、皆様と共にいろいろな形で審議していきたいと思います。今回は市民代表ということで女性の方もかなり入っています。また、メンバーも若い人も多い。議会からも優秀な議員も揃っていますので、次の10年を目指して頑張っていきたいと思いますので、皆様のご協力よろしくをお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。

6. 総合計画策定の諮問

事務局：それでは、本審議会に対しまして、稲敷市総合計画審議会条例の第2条に基づき審議会に対する「諮問」を市長からさせていただきたいと思います。

代表して、会長にお受け取りいただければと思います。

<諮問>

田口市長：よろしくをお願いいたします。

横須賀会長：お預かりいたします。

事務局：ただいま、市長から本審議会に対しまして諮問がなされました。委員の皆様にはよろしくをお願いいたします。



7. 近年の総合計画について（横須賀徹委員）

事務局：次に、議事に入る前に、常盤大学教授でありまして、公共政策や自治体学を専門に教鞭をとられております横須賀会長に、「近年の総合計画について」のご講演を考えております。

今後、皆様にご審議いただきます総合計画について、「これからの総合計画はどうあるべきか」など、専門的立場からお話を頂くことで、情報の共有化の一助となればと考えてございます。

それでは、横須賀会長、よろしくをお願いいたします。

<横須賀会長講演「近年の総合計画について」要旨>

総合計画は、昭和40年代の高度経済成長時に国が示した指針で、基本構想、基本計画、実施計画の3階層で構成されている。当時はまさしく右肩上がりの時代で年10%で経済成長している時代であり、毎年成長する分、大きくなるパイをどのように分けるかが課題で、総合計画より、単年度の予算主義の方が主流であった。

ところが、第1次オイルショックで経済成長率がマイナスになったが、その

後、安定成長と言われる形で、年4%~5%の経済成長率が続いた。一度マインスを経験したものの、安定した成長率があり、余剰があるので、財政主導で単年度予算主義が続いた。

その後、バブルが崩壊し、経済成長が大きく落ち込む。そこからは、右肩下がりの時代になってきた。本来はどこかを削ってどこかへ持っていかなければならないが、なかなか削ることができない。それでも市町村は削減した。なぜなら、民間であれば破産すれば借金は棒引きされるが、市町村にはそれが許されない。一方、国には特例公債がある。その間、税金はほぼ横ばいから右肩下がりで、歳出は伸びている。稲敷市は合併して10年。その間、交付税特例措置等、若干の余裕があったが、ここでそれも終了し、今後は他の自治体と一緒になる。

右肩上がりの時代の総合計画は“配分のための総合計画”、“ビルド計画”だが、右肩下がりの時代の総合計画は“削減のための総合計画”。何をどのように工面していくのか、どのように全体を維持していくのか、ということが計画の中身になる。

ビルド計画の時代の総合計画は、国の国家統治の考え方で、国の計画に市町村が合わせるが大前提で、国の計画に沿った計画になるよう、地方自治法の議会の議決要件ができた。

ところが、2000年に地方分権改革（住民に身近な行政はできる限り地方公共団体が担う）があり、国も県も市町村もそれぞれ同じ立場という考え方に変わった。市民がいて、それを支える基礎的な自治体である市町村があって、それと同等の形で支える都道府県があって、国があるという考え方に変わった。そこで、2011年5月2日に地方自治法上の一部が改正され、議会の議決要件が外れた（基本構想の法的な策定義務がなくなり、策定及び議会の議決を経るかどうかは市の独自の判断に委ねられることとなった）。総合計画は市町村が独自の視点で考えるものになったが、総合計画を止めた自治体はない。

今は、技術革新のスピードがとて速く、5年後、10年後を予想しにくい時代になってきた。今は第四次産業革命の時代。第一次革命は、石炭を使った蒸気機関で繊維工業、軽工業の時代で、衛生的な繊維が出回って乳児死亡率が変わった。そこから120年経って第二次革命。電気モーターがガソリンエンジンで動く重工業の時代で、鉄製品が安くなった。80年経って第三次革命。1970年代くらいから始まるコンピューターの時代で、人の仕事が機械に入れ替わった。40年経って、第四次革命はインターネット。今は人間が指図しなくても世の中が動く時代。これから20年、15年で第五次革命が来るかもしれないが、社会の変化のスピードが急速に速まっている。10年後の社会を

予想しにくい時代になってきた。

そういった中で私たちは次の計画を考える。何を基本に置けばよいのか。稲敷が稲敷であるためには、どうするべきか。国の画一的な考えにそのまま沿っていたのでは遅れてしまうかもしれない。国や県の施策は、制度的に省庁縦割りになりやすい。稲敷風にこなして、どのように作るのかということができないと、次の10年後に、他より劣る形になってしまうのではないかと。つまり、全国画一から稲敷個性と縦割りから総合化。もう一つは、地域の先導化。目前の問題ばかりに意識がいつてしまうと、どうしても単年度主義に陥ってしまう。この総合計画は、次の時代の人たちのために、どのようなまちづくりをするかという計画なので、何か先を走れる中身を作らなければならない。地域の個性化、地域の総合化、地域の先導化という3つを計画の中にどのように創り上げていくことができるか、これが一番大きな形。

それから、この計画を飾りではなく、実際の行政運営の中で活かせるものにするのが大事。計画と行政運営の上手い形を作ること。あまり逸脱すると計画ではなくなってしまう。実際の行政運営に使える計画であると良い。そのためには、財政フレーム等を含めて、ある程度現実的な計画を作ることが重要。

地域個性化、地域総合化、地域先導化が成立してくると、稲敷市の行政は、国の行政の中の末端行政ではなく、先端行政になってくる。国が言う形を受けて行政をやっている限り、それは末端行政。先端行政になるためには、自分達で形を作る。そのお手伝いを我々ができれば良いのではないかと思う。

事務局：ご講演ありがとうございます。今の講演に対しまして、委員の皆様からご意見・ご質問等ございますか。

篠田委員：私も会長の話されたことと同じように考えておりました、総合計画というのは市の最上位の計画で、この柱があって始めてこの5年、10年の単年度ではない計画を進めていける。ここに無いものはできないようなというくらいの計画が総合計画であると考えておりました。どうぞこれからもよろしくお願いたします。

横須賀会長：ここにはない計画は事業にはならない、というときに、よく問題になるのは、市長のマニフェストや議員の公約が計画に無いとき。それは、総合計画の中身を見直す時期にどう入れ込むか、あるいは、実施計画の議論の中できちっと全体で議論した中で入れ込むか。いつの間にか中身が変わっていくのではなくて、変わったということが分かる経過があれば良い。マニフェストと総合計画についてはよく議論される。総合計画の見直し期間は、昔は5年と言っていたが、今は4年と言われている。4年経って、万一首長が変わったときには、マニフェストと合うものを次の展開に載せられるように、というこ

とは考えなければならない。ただ、総合計画できちっと作ることができれば、誰がどのように変わろうが継承すべきものは継承していく、ということも、もう一つ重要。この代表例が、武蔵野市の緑の計画というものがある。武蔵野市は杉並区の隣で、非常に地価の高い、市民所得も高いところ、お屋敷が一杯あったところで、相続できない人の土地が分割されていくという現象が、昭和40年代から起きていた。武蔵野市の緑は宅地林だった。それが、みるみる緑化率が下がった。そこで、緑のネットワークを作って街路樹を植えた。おかげで、バブルが崩壊して地価が下がったときに、武蔵野市の地価の落下率は周辺に比べて3分の1だった。未だに地価は高く、人口も増えている。計画の継承性というものはこういうもの。

どうせ計画をつくるなら、若い人が私達くらいの年代になるまで、同じような計画の根っこがずっと続く。そういったものがあると、稲敷なのだと認識されるまちになると思う。

事務局：ありがとうございました。他にありますか。

<質問なし>

8. 議事

事務局：それでは、ただいまから議事に入らせていただきたいと思います。

これからの進行は横須賀会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

横須賀会長：皆さんにそれぞれ、自己紹介をお願いしたいと思いますが、その前に休憩を入れましょうか。それでは10分程休ませていただいて、改めて3時10分から審議会を再開させていただきます。

<休憩>

横須賀会長：それでは、皆さんお揃いになりましたので、改めて始めさせていただきます。第1回の審議会ということで開始させていただきます。内容に入る前に、各委員に簡単に自己紹介をお願いいたします。伊藤委員さんが所用で外してございますので、根本委員からお願いいたします。

根本委員：市議会議員の根本光治です。先生の話の通り、つくり方が重要で、まさに5年先、10年先が見えないという中で、しっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

岡沢委員：市議会議員の岡沢でございます。稲敷が稲敷であるための素晴らしい計画を、皆さんと作っていきたく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

篠田委員：市議会議員の篠田純一でございます。出身は旧桜川村でございます。議員の

中で桜川村出身の議員は私一人となってしまいました。その中で皆さんといろいろと話をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたしますします。

柳町委員：同じく議会の柳町でございます。先ほど先生から武蔵野市の話が出ましたが、私の恩師がその計画に係わりまして、先生のお宅へ行ったときには、小さなまちですが、とても住みやすいまちだと思ったという思い出があります。あれもこれもではなくて、あれかこれかの政治でいかなければならないし、交付税が今後下がっていきますので、夢のない計画を作っていかなければいけないのかなという気持ちも半分あるのですが、できることを見出す会議のかなと感じております。よろしくお願いいたしますします。

野村委員：僭越ながら主任児童委員会の委員長をやっております。岩崎さんが民生委員児童委員協議会の会長をされていますけれども、その協議会に属している主任児童委員会の代表をさせていただいております。お年寄りの問題に加えて子どもの福祉関係の問題も多くなってきておりますので、子ども関係を専門にする民生委員も必要だということで設置され、ボランティアのような段階なのですけれども、子どもの貧困というのが社会用語のようになってしまっておりますけれども、本当に深刻な家庭があつて、実際にどうしたら良いのかわからない程、目の当たりにしているという現実があります。食生活の方も書いていただいていますけれども、小学校に行つて、食育、子どもクッキングなどもやっております。よろしくお願いいたしますします。

青木委員：ここ5年ほど稲敷市商工会の会長を拝命しております。ご存知のように商店街も寂れているところがございますが、昭和30年から44年、45年のときまでが我が代の春でございました。それからスーパーができてカタンでございます。先ほど冒頭に伺いましたが、稲敷市はやがて消えてなくなるというようなことがございましたが、果たしてどのような過程でなくなるのか。私は物の見方は商業的に見ております。といつても稲敷市民であることには変わりございません。横須賀会長の先程の認識は、私は賛成でございます。身に合った甲羅でやっていかなければ、結局夕張になってしまいます。30秒オーバーでございますが、ごめんなさい。

田丸委員：稲敷農業協同組合の組合長をさせていただいております。田丸治と申します。よろしくお願いいたします。平成17年の合併で稲敷市ができて、その後、平成27年までは約6500人減少ということで、近隣市町村についても減少している。どういうことをしたら止められるのか。農業共同組合としてやっていくことは地産地消かと思ひます。99%は生産物を、他県なり、米などは東京へ行ってしまふという中で、1%でも地産地消をしていただければ、この地域が人口増に結びつくようになっていけば良い、ということで模索をしている

ところであります。この会が有意義な会になるように、私も精一杯努力してまいりたいと思います。稲敷市が益々発展するようお祈り申し上げまして、自己紹介にかえる次第であります。よろしくお願いいたします。

富澤委員：区長連合会の会長をしております富澤です。いろいろな会議に出ておりますけれども、市の行事の推進役としてはなかなか参画できない状態でございます。1年交代が多いものですから、今後そういう機会を捉えてやってまいりたいと思っております。私は市のスポーツ推進委員長も仰せつかっておりますので、スポーツの方でも何かありましたら発言をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

岩崎委員：私は民生委員児童委員協議会の岩崎昭一と申します。ご案内のように福祉事業全般に目を向けながら事業活動をしていく、というのが私どものお仕事でございます。今一番気にしていることを言います。現在、少子高齢化、特に超高齢化社会ということで、昨年12月から1月にかけて要援護者の調査をやりました。その結果、2,916名の援護を求めている高齢者、障害者がいました。民生委員は107名いますけれども、主任児童委員を除くと97名ということで、割り算をしますと、一人当たり30名の要援護者を受け持つということになります。行政区内で、もし何か災害が起きたときに、どうするか。そういうことを今、深刻に考えています。そのためには、民生委員だけではなくて、地域の住民皆で要援護者を認識していただいて、何かあったときには皆で助け合うというシステムを作っていければ良いと思っております。そのために、この1年間は防災ということをテーマに研修を重ねてきました。防災という運動と福祉の部分と、もう一つは、各地域のコミュニケーションが希薄になっておりますので、各地域の中での3つの活動を連携させて準備運動的に進めていくのが、何かあったときの対応として一番よろしいのかと考えております。そういうことを中心に活動しております。

小幡委員：私は稲敷市老人クラブ連合会の会長を務めております。稲敷市の人口は現在約4万3千人で、そのうち会員数としては1,800名程の会員ということで、諸々の活動を通じて高齢者の健康づくりという観点に重点を置いてスポーツを中心にした行事をもって高齢者の生きがいを作っております。先ほどもお話がございましたが、稲敷市の人口減少ということは私も非常に危惧しております。私の近辺を見ましても、人口が減るわけだなと思っております。空き家、転居する方、売り出し中という家が多くなっております。私の仲間の家でも80歳を過ぎると、一人暮らしができないということで近辺の子ども達にお世話になる。子ども達はだいたい千葉辺りに居ますので、どうしてもそちらの方へ行くということで、会員の方も減少しました。稲敷市の人口も毎月広報で見っていますが、平均50から60くらいの減少が続いているのではないかと。

将来、長期展望をするとそういう危惧があります。老人クラブの代表として頑張っておりますけれども、これから総合計画の中でいろいろ審議の一翼を担いたいと思います。簡単ですが、小幡でございます。よろしく申し上げます。

黒田委員：稲敷市消防団の黒田でございます。消防団は現在 1,400 名程のメンバーがおります。我々の使命は言うまでもなく、地域住民の生命、身体、財産を守るということでありまして、女性消防団も 14 名程おります。これから我々消防団として市民の皆さんに対してどういった貢献ができるか、この会を通して皆さんと一緒に考えていければと思っております。よろしく申し上げます。

高須(行)委員：稲敷市の文化協会の理事長をしております浮島の高須行雄でございます。何としても文化を盛り上げ、勢い付けようというような気持ちで頑張っているところでございます。よろしく願いいたします。

諸岡委員：稲敷市ボランティア連絡協議会の諸岡明美と申します。どうぞよろしく願いいたします。ボランティア連絡協議会は今のところ 64 団体で、様々な団体が目的を持って活動をしています。施設に入ってシーツを交換するとか、草刈とか、弁当の配給とか。正直言いますと、シニア世代の方が多いです。昨年あたりから若い方が中心となるボランティア団体も増えてほしいと願っておりますが、なかなかどういう形でそれを進めていったら良いかということが難しいと考えています。何とか、こういう機会にそういう考えも取り入れてもらいたいと考えております。先ほど岩崎さんもおっしゃいましたけれども、稲敷市は超高齢化に向かっていますが、その中で独居の高齢者の方も増えています。認知症の方も確実に増えています。稲敷市で今年度半期で認知症の方が行方不明になって警察に捜査をお願いしたのは 16 件だそうで、昨年に比べて倍に増えているという現状もありますので、この総合計画の中でボランティアとしての位置づけを明確にしなから、地域が活性化するような形で参加できれば良いと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

高木委員：市民委員の高木と言います。地区は浮島地区です。今、上智大学の大学院に通っております。総合計画の策定に当たっては、先日、稲敷市の江戸崎かぼちゃが地理的表示保護制度に認定されましたように、稲敷市の魅力をたくさん詰め込んで、より良い未来がデザインできるような計画が策定できればと考えております。学生という立場で恐縮ですが、皆様どうぞよろしく願いいたします。

墳崎委員：はじめまして、稲敷市で稲敷いなすけのキャラクターを活用した T シャツやバックなどをデザインして販売しております、墳崎崇史と申します。よろしく願いいたします。一市民ながら稲敷市の今後の未来を決定していくよ

うな会議に参加させていただきまして、とても光栄に思っております。若く
て至らないところも多々あると思いますが、若い世代は若い世代なりに、率
直に自分達の意見を話せていけたらと思っておりますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

高須(晃)委員：稲敷市商工会青年部に所属しており、旧桜川地区浮島で接骨院を営んでお
ります、高須と申します。やはり、人口が減少することと高齢化に伴って、
生産力が落ちていくことは可視化できていると思いますが、介護離職をせざ
るを得ない方がいたり、後継者の方も自分本来の事業に従事できなかつたり
しています。私の専門である介護・医業を通して何とか食い止めていきたい
と常々考えております。まだまだ若輩者ですが、稲敷市の皆様のために頑張
っていきたくと思います。よろしくお願いいたします。

沼崎委員：沼崎夕子と申します。私は龍ヶ崎市にあります横田農場という会社でお米を
作っております。横田農場では、農場ナビプロジェクトというプロジェクト
をやっております、農場にIT技術を投入していこう、それで技術を検証
したり、少ない人数で農業をやっていこう、ということをやっています。先
程、先生から、5年後、10年後の予測がしにくいという話がありましたが、
予想しにくいということは、また新しい技術が出てきたり、いろいろなもの
が出てきたりすることもあると思いますので、この会議を通して勉強してい
きたいと思い、ワクワクしています。わからないことばかりですが、どうぞ
よろしくお願いいたします。

田村委員：田村千鶴と申します。私は実家の自動車屋の後を継いでやっているのと、稲
敷市の市民団体 i-tones という音楽団体をやらせていただいています。年に1
度、自主開催でバンドの演奏会を計画してやったりしているのですけれども、
若い人達が元気になって楽しみを持てるような場を提供したり、次世代に残
せるようなまちづくりを考えていけたらと思っております。どうぞよろしく
お願いいたします。

清野委員：私は、10年前、桜川村から稲敷市に変わるときに、水戸市にあります祇園寺
というお寺で修行を終え、稲敷市の浮島という地区の釣船寺と書いて「ちよ
うせんじ」と読むのですが、お寺に住職として参りました。稲敷市の人口が
減るということはお寺にとってもお檀家さん、お寺を守る方が減るというこ
とで、この辺りを本気で皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。
本音で本心を語っていければと思います。よろしくお願いいたします。

浅野副会長：改めまして、こんにちは。先ほど副会長のとくに話をしましたけれども、
稲敷市の市議会の議長をやっております浅野と申します。今日集まってお
りますメンバーは各常任委員会の優秀なメンバーです。若い人がこれだけ集ま
って、女性の方も多いいということ、いろいろな意見を出していただきたい

と思います。総合計画は言葉も硬い言葉でできていますが、皆様の思ったことを、思いつきでも構いませんから、どんどん発言していただいて、そういうものを参考にしていきながら、市政発展のために頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

横須賀会長：皆さんからお話しいただきありがとうございます。諸岡さんのお話の中で、新しい繋がり団体がほしいとか、沼崎さんがワクワクしているという話を聞いて嬉しく思っております。団体を作ったり、グループを作ったりするときの、活動が続くための三要素というのがありまして、「楽しく」というのが最初にありまして、次に、「美味しい」、最後に「おしゃれ」というのがあるそうです。できますればこの会も、ここに来るのが楽しみなような会議にして、何か自分に身についたという美味しさがあって、今日は審議会に行ってきたおしゃれな感じだなという会にできればと思いますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

(1) 策定方針について（資料3）

横須賀会長：それでは、本題の方に入っていきたいと思います。最初に、「(1)策定方針について」、事務局の方からご説明いただきたいと思います。

<資料確認・事務局より説明>

横須賀会長：今の「(1)策定方針について」、ご質問等ございますか。質問ご意見等ないようでしたら、次に進めさせていただきたいと思います。

<意見・質問なし>

(2) 基礎調査の結果について（資料4）

横須賀会長：では、次の「(2)基礎調査の結果について」事務局お願いします。

<事務局より説明>

横須賀会長：中身のボリュームがあるので、質問といってもなかなか難しいと思います。時間も経過しておりますので、この辺は皆さんお帰りになって読み込んでいただいて、質問等ありますれば、事務局の方に直接問い合わせという形を取っていただければと思っております。

(3) 策定スケジュールについて（資料5）

横須賀会長：それでは、次の「(3)策定スケジュールについて」の説明をお願いします。

<事務局より説明>

横須賀会長：先ほど事務局へ質問と言いましたが、進行の不手際で、事務局の紹介をしておりませんので、最後になってしまいましたけれども、事務局の自己紹介をしていただきたいと思います。

事務局：お疲れ様でございます。進行の方を務めさせていただきました、政策調整部長の高山でございます。スケジュールにありますように、今年度と来年度、2ヵ年と、長期に渡ってご審議いただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：政策企画課の課長をしております糸賀でございます。先程の資料にもありますが、政策企画課だけではなく、職員総参画で作るような内容です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：政策企画課の課長補佐をしております濱田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：政策企画課の大湖と申します。よろしくお願いいたします。

事務局：政策企画課の原と申します。よろしくお願いいたします。

事務局：政策企画課の栗山と申します。よろしくお願いいたします。

コンサル：第1次の総合計画から引き続き、第2次の総合計画策定のお手伝いをしております、コンサルの都市環境計画研究所の荒木と申します。よろしくお願いいたします。

コンサル：大竹と申します。よろしくお願いいたします。

コンサル：長埜と申します。よろしくお願いいたします。

横須賀会長：ありがとうございました。

(4) その他

横須賀会長：それでは、事務局の方で他に何かございますか。

事務局：次回の会議ですが、3月の下旬に予定をしておりますので、よろしくお願いいたします。なるべく前もって資料の配布をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

9. 閉会

横須賀会長：それでは、事務局の方でも他にないようですので、本日の予定の議事は全て終了ということで、本日の審議会はこれで終了したいと思います。長い時間、皆さんありがとうございました。

以上